

教育実習 ～卒業生の言葉3～

緑園通信4号が連続掲載をしている、教育実習生の声の最終回です。「後輩へのメッセージ」をお読みください。学生スポーツの試合で、選手を励ますときの叫び声や声援をエールと言いますが、先輩のエール(声援)が学校という試合場で活躍する、緑園生の心に届くことを期待してします。

A1:進路はあせらずに時間をかけて決めてほしいです。

大学は楽しいですが、高校時代は本当に幸せだったと実感しています。さまざまなチャンスを与える高校だと思うので、少しでもやりたいと思ったら積極的に参加してみたいです。高校時代の友達は一生の友達になります。

A2:緑総は生徒ひとりひとりの「やりたい！」気持ちを伸ばし、サポートしてくれる場所です。あなたもぜひ、緑総でMIRAIを見つけてください。

A3:高校生のままの遊び気分では、大学に進学して痛い目を見ます。ドラマや漫画のような楽しくて、遊べるような夢を見ていると、本当に苦労します。毎日勉強をするという姿勢を身につけなければうまくいかないところです。

A4:興味を持ったことへは何でもチャレンジしてみてください!!始めるのが遅いとか、時間がないと思っていてもまずやってみると何か変わると思います!

A5:私は高校時代、目標に向かって授業やテストに真面目に取り組みました。私のように夢が変わることや、突然やりたいことに出会うかもしれません。その際に後悔をしないよう日々の努力を忘れないでください。

他にも社会に出たら40年以上働くので、バイトは程々に全力で遊びや部活に取り組むことをおすすめします。



生徒インタビュー3 ～モトクロスに賭ける～

1年次5組の神田橋芽(かんだばしめい)さんは、7月20日に開催された、MFJ全日本モトクロス選手権の第5戦・東北大会で見事、6位入賞を果たしました。この大会は、年齢制限のない、日本のモトクロスの最高峰のレースです。小学校6年生から全日本に参戦し現在レディースの部で5位にランクされています。

神田橋さんは5歳の頃からバイクに親しむようになったそうです。お父様が、家族がバラバラにならないように皆でできるものをとということで、モトクロスを始めました。今、全国の大会を転戦する神田橋さんですが、弟さんもレースに出ており、2台のバイクを積み込んだ車で、家族4人で全国各地の大会や練習に出かけているそうです。



モトクロスは3kmのコースを周回し順位を争う競技ですが、コース上にはジャンピングスポットが設けられていることが多いため跳ねたり飛んだりといった三次元的なアクションが多く、レースの進行とともに変化する路面コンディションにより複雑な要素を含んでいる競技です。転倒すれば大怪我をすることも多く、骨折や重度の打撲は年に4～5回はあると話してくれました。

神田橋さんは、有名バイクメーカー等がスポンサーとなっており、打合せも基本的には自分一人で行っているそうです。相手も神田橋さんを一人の大人のレーサーとして接してくるため、自然に大人の振舞いが身についてきたそうです。話し方がきちんと正しい言葉遣いでわかりやすいため、私は感心してしまいました。

モトクロスの魅力は何ですかという質問に、「バイクに乗ることが大好きです。いろいろな人と出会えて全国を旅することができることも気に入っています」と答えてくれました。

さらに「自分のために走っているというよりも、周りの人のために走っている気持ちが強いです。自分を支えてくれる家族やスポンサーの方や応援してくれる方々が喜んでくれるのが何よりうれしいです。

「自分のためではなく人を喜ばせるために走る。」感謝の気持ちを忘れずに、モトクロスによって人間力を磨き上げてきた神田橋さんに感心するばかりの時間を過ごしました。怪我と隣り合わせのレースですが、ひたむきな努力と家族の方を始めとした周囲のサポートで、より上位を目指してほしいものです。



校長 遠藤 誠